

## 高橋伸幸教授の逝去を悼む

札幌大学女子短期大学部長 山内 孝 郎

札幌大学女子短期大学部高橋伸幸教授は平成七年六月三日入院先の札幌白石区の恵佑会病院で食道癌により逝去されました。享年五十六歳でありました。長寿社会の現在余りにも早いこの世との別れであったと思います。まさに夭折といっても過言ではないでしょう。教授はかねがね

人生五十年、短くとも充実し切迫した生き方を標榜しておられたと聞いていました。しかし研究と教育とが私生活の総てであったように我々には見え、精力的に論文の発表を続け、また多くの稀覯本を含んだ膨大な蔵書を収入の大部分を投入して蒐集されたといわれる教授にとって、なお途半ばにして病に伏せられ、回復が叶わないことを自覚された時、その無念は如何ばかりであったかを想うと、誠に哀切、同情に耐えません。私ども同僚にとっても教授の死は極めて大きな損失であり痛恨事であります。また教授の属された学界にとっても取り返しのつかない喪失であったと思います。

高橋伸幸教授は、昭和十五年八月二十五日北海道上川郡剣淵町に生まれ、國學院大学文学部史学科を経て、同四十四年三月同大学院文学研究科博士課程を満期退学、母校の兼任講師、角川書店・小学館などの辞典編集を経験された後、昭和四十九年四月札幌大学女子短期大学部講師に就任、助教授を経て、昭和五十六年四月教授に昇任されました。以後本学にあつて研究と教育に尽力されたことは我々の知るところであります。

教授の研究分野は、国語学、日本中世文学、仏教文学、古文書学、説

話・伝承文学、日本史学等多岐にわたりその関心と活動の広さには眼を見張るものがありました。また別表に見る如く多くの学会において中心的な役割を果たされたことも多くの人の知るところであります。

教育の面では、極めて熱心な教員であり、「教育の本質は厳しさにある」という標語の権化とも言える人でありました。その厳しさは勉学不熱心な学生を辟易させ恐れさせましたが、勉学好きの学生の中に教授への傾倒者が多くいたこともまた事実であります。

教授は酒と美食を愛し、山菜などにも詳しくかつたことを思い出します。自然への傾斜はまた教授の一面でもありましたが、それは幼児からの生活経験によるものであったそうでした。

しかしその美食愛好にもかかわらず、あるいはかえってその故か、教授の偏食がその健康を損ねたかもしれないと思ひ、残念であります。

教授はその短かつた生涯を疾走して駆け抜けたように思われますが、凡庸の長寿に比して鮮烈な印象を我々に与えて去りました。

教授よ、貴方が我々に残したものを知り、もつて冥せられんことを。